

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	272500786		
法人名	社会福祉法人楽晴会		
事業所名	グループホームはるが丘		
所在地 (電話番号)	〒033-0071 青森県上北郡六戸町犬落瀬字堀切沢59-54 (電話) 0176-50-2162		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 10日	評価確定日	平成 19年 12月 5日

【情報提供票より】(平成19年 9月 5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 10月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 ~ 21,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬季6,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 利用者の概要( 9月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	81 歳	最低	74 歳 最高 90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山医院・福田眼科・聖心会病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市に隣接し交通の便に恵まれた場所に立地しているも騒音等はなく、おおきな桜の並木のなかであり、落ち着いたたたずまいになっている。共有スペースは、木のぬくもりと天窓からのやわらかい日差しがあり、椅子の配置や和風コーナー等に、一人ひとりが安心できる場所作りの工夫がみられる。職員は入居者の歩きたい・買い物に行きたい・横になりたい・話したい・の生活に寄り添って支援している。食事中の笑顔とセンター方式で職員がとらえた姿が同じであることに、安心して生活を楽しんでいることがうかがわれる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価においては、改善課題は特になし</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>勉強会を開催し、サービスの質の向上につなげたいとの意欲はみられた。全職員が一丸となって取り組んでいくことを、よりいっそう期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>具体的な検討課題を提示し意見を引き出し、サービスの向上に活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族との面談等で、気軽に要望・意見を聞くように努力している。また第三者苦情解決委員会を設置しており、利用者が意見、不満、苦情を外部者に表せる機会を(月1回)もうけていて、施設運営に反映されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>安心して地域で暮らし続けられるよう、行政・警察・消防・民生委員・ボランティア・近隣住民との連携が図られている。パンフレットや、施設だよりを玄関に掲示し、来訪者の理解が、得られるようにしている。認知症対応の居住環境や、職員の機能を活かして地域住民との交流会や、研修会への参加等を検討してみようか。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念が、わかりやすく表現し、掲示されており、その人らしく暮らし続けることをささえている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時研修では理念を伝え、理念を具体化したケアの提供と、定期的な研修を行い、実践に生かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に挨拶等で声を掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている。	○	地域住民の一員として地域の自治会との交流を密にし、地域活動への参加や、広報等を利用し、地域住民への理解と交流の拡大に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を理解して、全職員で取り組んでいくように勉強会を設けている。</p>	○	<p>全職員が一丸となって取り組んでいくことを、よりいっそう期待したい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>具体的な検討課題を提示し意見を引き出し、サービスの向上に活かされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービスは、市町村の理解や支援が必要であることを理解しており、積極的に現場の実情等を伝えてサービスの向上につなげている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的に勉強会を開催したり、研修の機会を増やし職員の理解を深める取り組みをしている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内での勉強会やミーティング等を実施して、理解を深めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族等の不安や疑問点を確認しながら、十分な説明を行い同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりを伝えている。又金銭についての確認等も行われている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設立し、意見・不満・苦情を表しやすい機会を設けている。また、苦情処理の手順が徹底されており、利用者や家族の意見を十分に受け止め、本部にも相談しアドバイスを受けながら対応している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ異動による影響を少なくするため、変わるときは早めに利用者やご家族へ説明をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は年間計画を立てて実施している。外部研修参加時は職員会議時に伝達をし、研修報告書は、全職員が閲覧できるようにしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修会での事例検討会等を通して、事業所外の人材の意見交換や経験をケアに活かし、質の向上が図られている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐに利用となる場合が多くあるも、家族の協力や情報を得ながら可能な限り、安心感を持ってなじめるように、工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介助が必要な方に対しても、支援する側・される側という意識をもたず、自然な雰囲気の中で食事や会話が行われている。また、多くの職員から「利用者さんから教わることが多い」という言葉が聞かれ、対等の関係作りを意識していることが見受けられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握につとめている。困難な場合は、本人の視点に立つてのアセスメントをし、家族や職員で検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員全員で意見交換や、カンファレンスを行っている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、本人・家族の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には、検討見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人の希望に応じて対応している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、及び本人にとってどうあったらよいかを話し合い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティング時に職員の意識向上を図るとともに、日々の関わりに関しても職員間で振り返り、利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。	○	職員会議やカンファレンス等の時間や場所においても利用者への配慮をよりいっそう期待したい。
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに添って柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴を拒む人に対して、言葉がけや対応の工夫、スタッフ間の連携によって、一人ひとりにあわせた入浴支援おこなっている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらう、心身の活性につながるよう日常的に近隣の散歩、買い物等の支援をおこなっている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束がおこなわれていないか等を点検している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、利用者が外出しそうな様子の時は、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等して、安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的におこなっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週、隣接している同法人施設の栄養士の献立をもとに、一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら、栄養バランスにも配慮している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で感染症について、細かくマニュアルを作成し、職員で学習して、予防・対策につとめている。また、利用者及び家族からの同意を得て、職員共々インフルエンザ予防接種をうけている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等、予防も徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全体的に温かかつ落ち着いた装飾がよくなされていた。観葉植物なども上手に配置されていた。また外が見える場所に何気なく椅子が用意され、ひとりになれる空間もあり、心地よさが感じられた。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真や使い慣れた日用品が部屋に持ち込まれており、利用者の居心地のよさに配慮している。</p>		

 は、重点項目。